紺屋茶染口傳書

寛文六年刊

別14
6

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6

ガラス使用

別14
6
別置

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6

ガラス使用

紺屋茶染口伝書目録上

第一　かりのせんで屋う

第二　同じくうのせんでやう

第三　りかまのせんで屋う

第四　こうやうだんのほうひやう

第五　上色のゆうぎん

第六　いろくのまんしやう

第七　乃ろ茶　第八　きらかちや

別 14-6

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6

ガラス使用

第九　あび茶
第十　せんさいちや
第十一　むらご
第十二　とびつぼ
第十三　うぐちや
第十四　ほちや
第十五　さぐらちや
第十六　ものちや
第十七　まんぼう
第十八　やくさ
第十九　りんご
第廿　ひろうどう
第廿一　まんだんちや
第廿二　あいものちや
第廿三　まんがうくろ　家ノ屋敷
第廿四　柚の葉かつ藏

第一　ろのまんでぼう
ろぐとしてごだんどふくせんでやい
但ごだんずなくつてさずとこだんず程ふ
うとくのぐまんでし但こふまとせ
んでぞのまなとそこうどやとを
せんだぞうくもしこぞうはこうびほど
まんでてけとは屋きなは様てうひし
第二　同ろのまんで屋ぼう

ゐまもなごとやすあくせんでし。但
うゑ紙屋びよこうまるもどきんでしい
ぢんのごとくこうるどやとせしうをを
すこのあるせうぐんぱのるべくもかるら
分入ずれ分程入きんでし但やとりこ
なごとこ入せんでしぢうゐ紙ハ
ぢうちやちびちやぢんさいぱのちやくも
ぢまあ紙めふといふ紙ぢうゐ紙とは

ひし。但ちくうちやのゆうぐんみて又
かるもあるで事みん。但るいるゐひるか
どはいくうふくもちるしかるびぢありさ
ぢぶんハこうちりくしくハはるれりさんく
それをるるとうふうしるるるかる寺

第三 桃うハのせんでやう

なるるどちくせんでうぐうくぢぢとそせ
んでうぐ第んハびやくふるるどんさう

つまとせぬやうふいふをまちうとさんび
まはこうやうだんのはたひやう
からとうやうばんとしてやうびようひよい
あうひいうまこしかきあうものあらばこしは
めふまれうちなべの中ふくうまのちうり
あうせはたひよこしかうきものふくもよいは
しかりのふくもたうぐとくにつうひよい
但りめんのまうぐひぐりはつひよこねの

たぐひうへかすてもはつひふり
まういろのゆうぎん
のまりあうさたかくへうめうれもけう
くへあうさとめうれとのありひがくへを
ゆうそ一ゆんよへ湯ゆ茶ぶそうこと
すうれあうせうへうあうけし但うへあ
うゆまかへめまあぐうあ事ひりひう
のそへうぼさうこけうくへうきん

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6
ガラス使用

ぼうなどぱくぱくあびさせうい病をとらるよ
うにぱーまーとるーわるんぷらん
どこ病あるぱーまーとるわく仕ぷり
ぱまーとるそくしんぱりんあるまとよい

第六　ひくのあぶらしやう

ぱぢ紀乃きい一絡ふあ一まくだ地
なるほど湯あつさぐらくいぱくの種らひ
どうそうあん一ぱんはニ絡わどふてよく

ひくのあぶらはぱまーとるくい
第七　うちやまのあぶら
かまニしかニちはもつまそうちんわと
してぱそゆ紀ぱ紀ぱぱんわどふあるよ
とひーあくふこぢい四まいわど入てぱ紀
ぱまーとるい仕ぱうるくぱうい色をお
づくぱぱりぱまいぱ紀乃ぱ紀わどう
うい病ぱまーとるわのあぶらはよい

あとをあらためたきはいろよさをを
かくまんとてかををあし。もし黄(き)の
あたらをいろいろのうてよりまふらうぐん
かくまんとをんそめんだ。さあわし但右
の下をあのうをこしかめのうんまそあく
とういろいろけりんどきあもし

第八 きをはちや

きるぐ紙あさだよそあ。うをとこしか

こしのつまそ。そそらいろいたらうちやのご
くようけり。但をぬのあどひはうを一を
んまくあのうを一しかそあふそありい
但をぬはいうまのうんまくうをしだんつう
ひりをずい

第九 あびちや

うをこしかつまそ。ういろちやうり
かうの紙こくんくうちやのだとふ

とうまきし

第十せんさいちや

ちゃぞめぶくろとれをうりそめてぶくろのつを
屋うたあめをうるちやのごとくふくそめしぶ
うへいろもたぐごとくにうるあしぶくねよ
ハ物ものうを一しかそめふけてどくけの
よくもこそぬたぐひよりあうだんのい
しふし

第十一むまぐ

下そめ紙うを一面ぐんつをぶくとをうをそ
ぬくなるまでそめて大くをうをうをとて
ぶくをとあふあくをけるひとりにて
うけし紙あるをとをうをぶくう
をとごし

第十二とびの紙

下そめ紙うを一面ぐんそめぶくとばをうをみ

てあくなるほどそめぐろ紙ばらもの
ごとくよゆなりまそうつけし
但ろうとしもうらろうとしぐろ
もぬりをあめで事あしぬりろうさる
しらぬろう紙入りまそうかをとうまし

第十三うだちや

うまやすうとどうのあくなるほどうま
こしかしかはつまそあくうく程深

ろうろうよあくとうけしあり蒙ばとうよ
とぬをぬかとうとひくへし

第十四はんどちや

うまこしかこしはかどそあり赤もまん染
まくらぬかまのうくへまくこうだんあうら仕
そのうくよあくとうけし但赤もうろの
ああうとぬぬとうをこ合程入そあり
うあくとうけし

第十五さぐちや

右江戸ちやのごくふうまばりあてそめし
紙えどちやのうりうま一ぱんかどうまくそ
めてぷいろいあくどりとりけし

第十六とのちや

うま二ーかつまそぷらてぷのくどんめうてぷのく
とうけぷちばりあまそぷゆ紙めるあふまり。摘(つけ)
ま一ちい入ぷろと弱(す)とひしやくま一ちい入ぷろと

とちやくうり書(えん)ぶん入うま海りてぷろ陸し
紙ぷつまうひうてぷうろと弱(す)とど入あい
せくちまりちあてぷ色のほくまですと
ろうろ紙かづくまへてぷくろうまし

第十七ぷんぼう

うまこーかつまそぷうと一ぷんうけぷめまあぐ
らうあかくまちぷ紙つまそぷうまこーしか
まあそうぷうとうけぷちくごくほつまそ

りうしゝ二ゑもん程そあつきし

第十八やくさ

下そめうとをれをあてぷりやとえちん

つきて。紙一ゑもんくはつきとい

ぷてうんとをはぐ紙のあくとうけとあし

第十九りうぐ

下そめ紙どくさりきとをしくそあぷれ

もりやをちゑもんまくぷあくハたくとてき

ゆくりうけし

第廿ぐろうやう

ちゑそめ紙ちんまそあてぷつ紙りやとふ

てえちゑもん程つきぷたくちゑふ深

しぷをしあんびろうどうとつを紙ぷちき

ぐあなりはどあくそあぷうちきはたくご

とくあくあくなのぎし

第廿一あんぐんちや

下うゑんとれをあてゝうをこしらへあゝまの
うへまくるやうばんりこ付。あくらをて
たくとやのちやのごとくふうろを紙湯を
わゝ。ゝ紙をうけしぼりもつて黄めふと
ゝとれはうをたくけとくろ
だんかうまへ。一ゑんそあくんで黄めあり
寸法二ちやあとちや
たくとあくをかふてたくものちやのごとく

深しうをたくとゝ切れどくとの茶
まゝ。ゝをあ紙めまとゝふとれを地とたくゝ
あゝまくさゝとそあり地
寸法三ぼんぼうとくとの口徳
うをこゝふとそあゝそのくへまゝ一ゑんそあて
ほゝとゝとあゝちたくとゝ切ゝつをたくの金
て又一ゑんそあゝまるあゝうをとゝ紙ゝのくへと
うをこゝふとそあゝ又たくごとくにうを紙ゝけし

又ぞめようまこしかそめぞんぐとくふう
とうけとそびほりてぞうのうちあふを一ぐん
けりんぐぞばぞめうをあくいぞうふうを十
ぐんぞうのうこしぞうこしかぞうとひはこしかぞと
ちぐんりてい

同りんのうそめやう

うをこしかそめぞうぐうをちぐくふう一編
つぎぞうそのうんをわまこしかぞうんを

うの一ぐんはをとそんしぞちんもあてらく
うんのうそめうかを一ぐんはをひしちぜん
こりんなどゞ偽り深りとそんぞうつまそ
まこうんをまちまあなうほどちくいぞこうん
ひをぞまこうんを中絲ずこうちくいまあを
一ぐんりぞうこうのちまあそぐふまあを
りまんのそんぞあのぐくふぞうけて
ひをこしぞ絲りんどこ絲をまこも超ぐて

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6
ガラス使用

ふりうるかきうつさて。むせんのすみく
ねうしぼり むせんずなくらぷのすで
も ねりで きうくい

宋元紙 桃ごまあしはのうぐいす

うまかあくせんぷとるのうちあべの中まく染
付し。但ぢ地のさぐひいだうちの事なく
但りんどうのものそあ屋うれまり
とくくだのりけしのぢどいぶんてまい

ちやく染しぼりかうまに紙つきうぷまく
りうねくそあくどひうきなくいぷ又
宋んぼうのさぐひいぷまに紙あくせんねけ
へつまくそあし但ちんどうかの絹ぷ又ふる
てもとふすくも。一ふへ但ちとせぷりんう
さにへうせんぼりてぷうう又まく染
但ちんがうのひつきやうも同事まい

紺屋染口伝同録下

第一　墨川屋　第二　もんどそめの
　　　

第一まめ乃川やう

超(そう)じてきぬ乃あぶらぴ地(ぢ)のあつき物よいぽまあ

なるほどもくしてりしぷ地あひうひき

ものまちくちりうとくしてりしぷくも

めんまてもきぬまくもぷ地あひろやうとめん

うひうんうりみん

第二りん布乃りろうぐまん

行ままくもまくりりのだぷひよいぽあぷりり

このりをおくまんぷくりまさて初めて〳〵ぐら

ぷりりとそそとりけまくなぞぐとさし

第三のりうぐん

ぷりまこうんぷ布めなりふぷりふりら来

のわりかくまん桜乃ぐんまく付りぐんま移り

合つまぷしぷこうんぷぐろめたりゆはめりま

のりりかひうんぷしぷ乃るめるあそもぷり

を紀乃ぷまぐひ乃まるめり物ぷりいぽりふぷ同紙

くまへしぼりまきまでハなくんとよれ
ちるし

甲ぞうり屋とりまんじゃう

なるほどあくせんぐるげくいぶちろき茶
まんよ入かんとそぶとのみそぬりあるげくく
ろ屋ぶ行ようりもくわごとくのせんぐ
うぐまんうくい

甲又ぶたるの乃業とりん

十五

うぶ紙つまそぶちろまあなるかどちくいを一ぐん
りぶまうへようとを移どちを移あるまあを一
ぐるんりぶ中移どちおどちあるまあ一ぐるんり
そのうへようやとこるぐんりし紙一ぐるん
くふくほ紙ぶまうへよちうりやをふか
うやうどんとくまへりし

甲六うちやうちん

うぶ紙つまそぶまうへよちあなるかどちくいを

一ゑんりぷ　よりあい　ゑんどうまめ　一ゑん
りぷ　ゑんどうまめ　よりあい　ゑんどうまめ　一ゑん
ひとぞめ　ゑんどうまめ　ようりゑんとこ　二ゑんりぷ
うへ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ
ゑんどうまめ　りぷし

第七　きづちやこもん

ゑんどうまめ　ようりゑんとこ　ゑんどうまめ
りぷ　ゑんどうまめ　ようりゑんとこ　ゑんどうまめ　一ゑん
りぷ　ゑんどうまめ　ようりゑんとこ　ゑんどうまめ　二ゑんりぷ　のとあふ

かりゑんとふ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　一ゑんりぷ

第八　えんどうやこもん

ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　二ゑんりぷ
ようとふ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　一ゑんりぷ　ゑんどうまめ
にゑんやとふ　二ゑんりぷ　のとあふ　ゑんどうまめ　ゑんどうまめ
ようゑんどうまめ　ゑんどうまめ　一ゑんりぷ　りぷし

第九　ちやこもん

ゑんどうまめ　ゑんどうまめ　一ゑんりぷ　ゑんどうまめ

うへよりとゝ様ずこわどもろまあこゝ百ん引
ぴゝまつへよ中わどゝ様あろまあ一百ん引
ぴゝそのうへよむゝたとうりやとゝ事ぐづく合て
こゝ百ん引ぴゝそゝとうとあふりやとふるう
ぎんかうまへ引ぴ

第十あとちやこゝとん

うつまゝちろまあくいと一百ん引ぴゝまふ
様どゝ様あろまあ一百ん引ぴゝまゝふ中

わどゝうとなろまあ一百ん引ぴゝまゝふから
やとこゝ百ん引ぴゝまゝふりやとふるうげん
かうまへ一百ん引ぴゝぽあぎてちくふけて
うとくいこゝどんあいまくさとそああげ
わまなどうとゝ様ぽぴゝとくあいかて
まりとやさやうよそむろ事ぐんうみて

第十一こゝびちやこゝとん

うつまゝぴゝろまあくいと一百ん引ぴゝまふ

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6
ガラス使用

袴どき程なるまあ一ぢゃうん引ぞきふろ
ちやうまあまるにまあ紙一ぢゃん引きうよ
うりやとこぢゃうん引きふりやとふうや
ばんかうまへあふりし

第十二とのあこうりん

うさぎをそきふろまあくいと一ぢゃん引
袴どきうどるまあ一ぢゃん引ぞきうよ
中ねどきうどるまあ一つゃん引きうよ

かりあとと一ぢゃん引ぞきふりうまこぢゃん
引ぞのとあふりやとふやうどんかうまへ
ひさし

第十三りえうきあきもん

かうをそきろまあくいと一ぢゃん引ぞう
と袴どきうどるまあ一ぢゃん引きうよ
ちうきりかくいまあ一ぢゃん引ぞと
よかりやとこぢゃうん引ぞのとあふりやと

よこやうばんかうまへ一ゑんこ引かあぜ
ちくこうようけてぞさあいよちあをちやよ
つまかまぜあらせをあしぞ仕こんまそよ
ちこしまくもくろぐろくみて

第十四 同 紺地

ちくぐようとれちろまあ一ゑんこ引又を
うへをうとちるふそあぜ又をうへまりり
やとゑんこ引へのとあしかりやまとふ

だんかうまへ一ゑんこ引かあぜうへとち
とあいよて染そのまちとぞし

第十五 くろばへ
下地とむ第二ゑんこ引をうを一ゑんこ引
又をとぜくろ屋とふこやうばんをかうへ
一ゑんこ引かまるぐうとぜ仕はあぜそをと
ようをそをとぜちろまあくいと一へん
こ引又をとを中移とぞかうまあ一へん

引又ちとふなるわどらゑ極きまゑ一ゐん
ゑきぷそのうへようと極ずこほどのうまあふ
ぷどいなるゑどおらうまへとあふ引し

第十六くばむら
うるまぞむゑこゐん引ぷぷうま一ゐん引
ぷまとふうやとふうやうぼんあうまへ行
しぷどぐふあまるぐうあふくきゑ紀ゆし

第十七極どうへし

下深あきぐふうゑんぷうとふあうまそきうま
めあくゑ紀一ゐん引ゆ極ずゑるあうま
ゑん一ゐん引し

第十八うう菓うんぼうこうん
うるまくぷうまあなるゑどきくびを一
ゐん引ゆ極どこほどあるまあ一ゐん引
ぷうとふうあとうきまあ一ゐん引ごま
とりうまこゐん引ぷへのあふ〇一箱

ひとさし

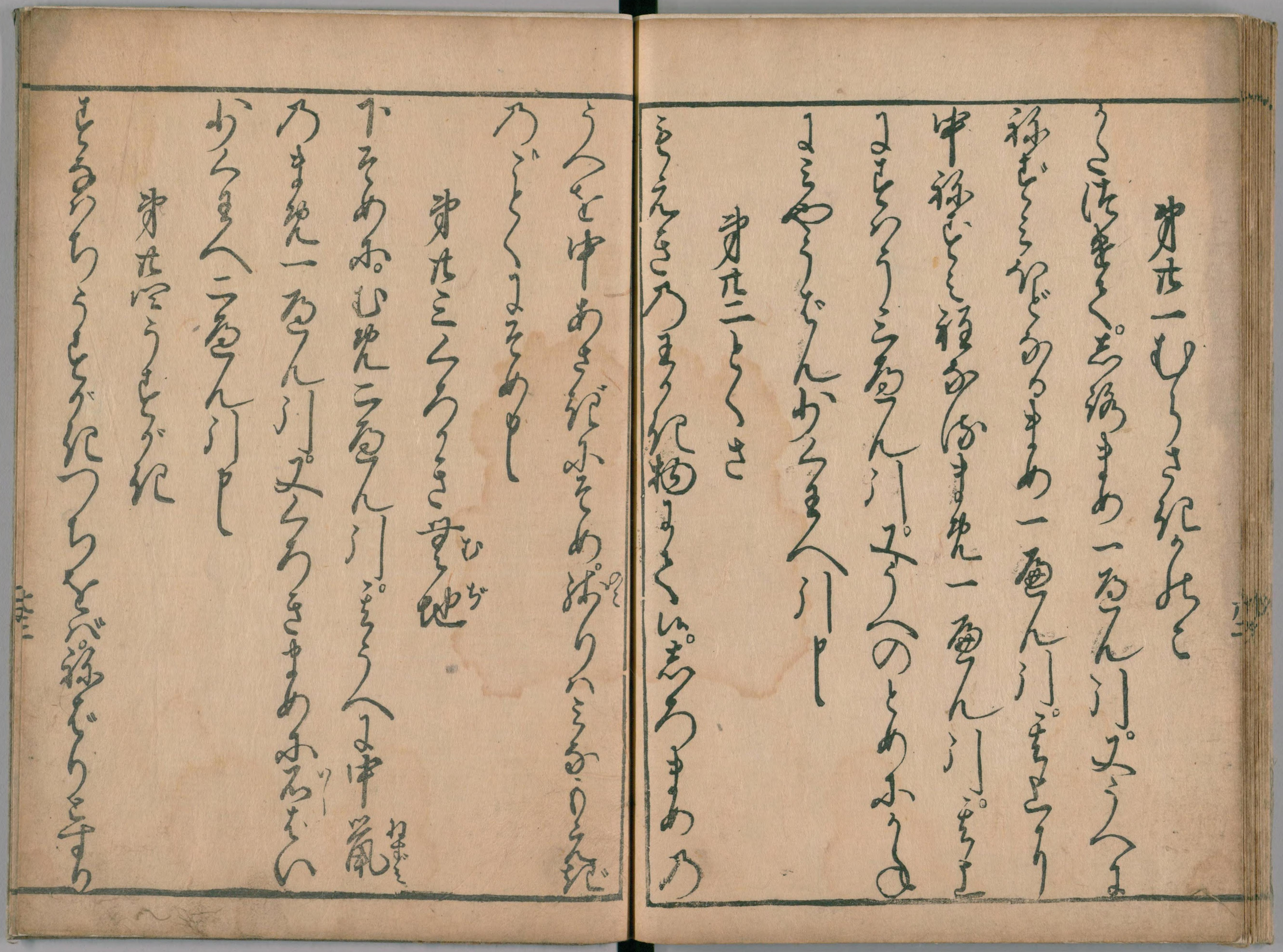
黄十九くすり色ふみと
うとまくぞろまめ
ぞとなるまめ一
め一色ん川ぞとう
乃とめふうのようくだんかうへ川と

黄九ひの色ふみと
うとまくぞろまめ

ん川ぞ紙一色ん川ぞ
色ん川ぞうくすま
ん川ぞへ
ん川ぞ紙一色ん川
ぞ紙一色ん
ぞ
ん川

又ぞとふとうぞ色ん川ぞ紙一色んく
ふくはつまくぞうくだんを粉の
ふくりどあとぞりどあ川ぞ紙ぞん
やう大事みくいぞとまう川ぞと
うへとまうぞ又とうまめ紙一色んそ
も二色んまくもうへくだらぬ色うに
りと事うんうへくいぞ紙ぞねまくも
りあんまそも紙ぞ事まくい

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6　ガラス使用



第廿一むらさきを
うこんきくぢ紅花まあ一ぱん引ぢうこん
紅ばなまあ一ぱん引ぢうり
中紅ばなと紅花まあ一ぱん引ぢ
よりうこん引ぢうこんのとあふる
よりうこんかうまん引し

第廿二とくさ
とくさのまつ紅花まくいぢうまあり

うこんを中あさぎ紅ふりあぢりふるり紅
ばくくよりあり

第廿三むらさき
下そあふむ紅花ぱんぢうこん引ぢうこん中嵐
ばまあ一ぱん引ぢうこんまあふるい
かうまんこうぱん引し

第廿四うまぶ紅
とうらうとぶ紅花ぢうとぶ紅つ

てちろまめうちとくしてちりまぜ合て
ひぢ
ぞ後をうハ一ぐんこもんなるハこうぐん
ひくもし

中ぬりのくさこもん

うつをてぞちろまめなるかどあくいと一
ぐんリぞもふ後どもかとるまめ一へん
リぞもうり先ぐんこぐんリぞもるは
うもとねども後をうまめぞ後あくしてゐ

とのとかうまへこうぐんリし

中ぬりたくりむ先こもん

うつをくぞもふちろまめあくいと一鞠
リぞもうり後ども後なるまめ一ぐん
ひくぞもうへよ中ねもとるはとるまめ一
つんリぞもへよむ先こぐんリぞもる
中後ずも後をうまめあくいとぞもぐい
かうまへてこぐんリし

別14
6
551-96

寅七月くりむしん安地
下にむしんこもん引中絶ずとなる
まあるくいよいよ出ずいおくまへこもん
引申

寅八月ようる
ちくふむしんこもん引ぞうへよちくまあ
ようずいおくまへこもん引申

ちくぞうへ八京ぞうこもん屋ちくぞあや
秘伝くうはり秘伝ひ書

寛文六丙午暦仲春仲七
柳与物語押紙下ル所
絵書い勘兵衛板本

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『紺屋茶染口伝書 2巻』 請求記号 本別14-6

ガラス使用